市水道部庁舎。昭和20年7月の空襲で焼失した（随想舎提供）

# ごあいさつ

# ごあいさつ

宇都宮市長
佐藤　栄一

宇都宮市は、明治29年４月１日に市制施行し、人口３万５千人の都市として歩みはじめて以来、平成28年４月１日に市制120周年を迎え、人口約52万人の農業・商業・工業ともバランスのとれた北関東の中核都市として着実な発展を遂げてまいりました。

宇都宮市の発展を支えてきた本市の上下水道事業のうち、水道事業におきましては、日光市から本市まで水を送水するという壮大な計画のもと、幾多の難工事の末、大正５年３月１日に市民待望のうちに給水を開始して以来、平成28年３月１日で通水100周年を迎えました。

また、下水道事業におきましても、戦後の経済成長による本市の下水処理の必要性から、昭和37年に田川処理場（現下河原水再生センター）の建設に着手し、昭和40年８月に中心市街地の下水処理を開始して以来、平成27年８月で下水処理開始50周年を迎えました。

現在、本市の水道普及率は98％超、下水道普及率は84％超となり、多くの市民が「安全でおいしい水」や「下水処理による快適な生活環境」に大きな満足感を得ている状況にあります。

水は、私たち人間にとって欠かすことのできないものであり、都市もまた水とともに生きています。私は、市制施行120周年と水道通水100周年、下水処理開始50周年という極めて意義深い、記念すべき節目にあたり、都市と水の繋がりの強さを再認識するとともに、改めて上下水道事業の使命の重さに思いを新たにしたところであります。

現在、頻発する自然災害への対応や施設の老朽化対策など、市民の安全・安心への関心はますます高まっております。このような中、本市におきましては、市民生活に不可欠なライフラインを次の世代に引き継ぐために、「建設・拡張」から「維持管理・更新」の時代へと転換を図り、持続可能なまちづくりに向けた「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成に対応するなど、「100年繁栄都市うつのみや」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

結びに、先人たちのこれまでの御労苦に改めて感謝申し上げますとともに、市民の皆様方並びに関係各位におかれましては、「宇都宮市水道100周年下水道50周年史」の発刊を契機に、今後とも、本市上下水道事業により一層の御理解と御協力を賜りますよう心からお願い申し上げましてあいさつといたします。

# 発刊のことば

宇都宮市上下水道事業管理者
桜井　鉄也

本市の上下水道事業は、平成27年８月に下水の処理開始から50年、平成28年３月に水道の通水開始から100年という歴史の大きな節目を迎えました。

これもひとえに、上下水道事業に携わってこられた先人の方々のたゆまぬ努力とその御功績、そして、市民の皆様方の御理解と御協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

水道事業を振り返りますと、宇都宮市の中心部は古くから「池辺郷（いけのべのごう）」と呼ばれ、水の豊かな地でしたが、良質な水には恵まれておりませんでした。伝染病の発生も重なり、明治11年頃から住民の間から水道布設を望む声が起こりましたが、財政面などの問題から実現に至らず、多くの年月と労苦を要し、大正５年３月に全国31番目の近代水道として給水を開始いたしました。現在では、ほぼ全世帯で水道が利用できるようになり、今や市民生活はもとより、産業を支えるライフラインとして皆様に信頼され、親しまれるまでの成長を遂げております。

また、下水道事業を振り返りますと、昭和32年に市街地の中央を流れる一級河川田川の西側で下水道管の整備に着手したことが始まりです。その後、市の発展に併せて処理区域を広げ、昭和50年代には、『トイレの水洗化が生活環境の改善に不可欠である』とのことから、下水道の整備を市の重要施策に掲げ、積極的に事業を推進し、現在では市民の快適な生活環境を実現しております。

この「宇都宮市水道100周年下水道50周年史」は、これらの先人の方々たちのたゆまぬ努力とその御功績を残してゆくことが、現在、上下水道事業を担う私どもの責務であるという思いにより，「宇都宮市水道100周年・下水道50周年記念事業」の一環として企画したものであります。

以来、約３カ年の編集作業を経て、ここに刊行することが出来ました事は、誠に喜びに堪えません。これまで本書の刊行にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

結びに、本市の上下水道事業は、市民生活に欠かせないライフラインとして、次の50年・100年先を見据え、持続的に発展し、お客様に信頼され続けることを目指していくとともに、本書が、その重要な役割を担うことを心から願うものであります。